

通 信

宇宙物理學教室だより



十一月七日(火) 御大禮を行はせらるるため、天皇皇后兩陛下昨六日東京御發輦本日京都御着輦あらせらる。教室より教官始め職員學生奉迎鹵簿拜觀す。

十一月八日(木) 稻葉氏、郷里大分より送り來りしこて見事なる柿一箱居合せし職員學生一同に振舞はれ皆舌鼓を打つ。

十一月十日(土) 御即位式を擧げさせらるゝ當日なり。本學にては運動場に於て奉祝式あり。正三時萬歳齊唱式終りて祝賀會開かれ教室よりも一同集合祝杯を擧げたり。

十一月十二日(月) 木村水澤緯度觀測所長來訪、本日より二日間御大禮記念の本大學開放、教室へ入場者約二千人。

十一月十二日(火) 本日は團體の入場者多く、總べて約三千人。

十一月十七日(土) 午前十時より講義室に於て約二時間木村緯度觀測所長の講話あり。

十一月二十日(火) 實驗室南檐に接近せる榎の大樹、太陽觀測に障害ありて其梢を數朶伐採せり。

十一月二十六日(月) 本日兩陛下東京へ還御により鹵簿のため、教室より教官始め職員學生等拂曉より出掛けしもの尠からざりき。今曉村上忠敬氏は山崎フォルベス彗星を發見。

十一月二十七日(火) 山本教授今朝倉敷天文臺へ出張。翌二十八日歸洛さる。上田助教授病氣本日より休講。

十二月一日(土) 本日は本教室見學者多し。朝來絶えず中村助手案内説

明さる。見學者は

武藏高等學校十名，三重縣木本中學校八十五名，大阪高等學校二名，廣島高等師範校三十餘名。

十二月三日(月) 武藏高等學校六名見學，伊藤助手案内説明。

十二月四日(火) 上田助教授病氣全快出勤せらる。

十二月六日(木) 山本教授午前十時より大阪へ，新城教授今夕出發上京せらる。

十二月八日(土) 新城教授今朝歸洛出勤せらる。本日午後一時より樂友會館に於て史學研究會の大會開かれ，新城教授の講演（支那古典の年代に就て）あり。

十二月十日(月) 新城教授宮中よりの御召により今夕出發上京，明十一日の御饗宴に列せらる。

十二月十一日(火) 大工來りて實驗室の一隅に暗室の造作に着手す。

十二月十二日(水) 午後二時より物理教室第四講義室に於て，獨逸ミコンヘン大學ゾンマーフェルト博士の講演あり。天文台より多數聽講せり。

十二月十三日(木) 新城教授歸洛出勤せらる。

本日北館露臺に於て，新たに購入せし子午儀臺造作の工事をなす。

十二月十五日(金) 午後一時半よりゾンマーフェルト博士の講演あり

十二月十六日(土) 山本教授中村助手花山に出張さる。

山口支部通信 十月十三日から三日間，山口縣下の 大禮記念 教育品展覽會が山口町で開催せらるゝ好機を利用して，天文趣味の普及とわが會の宣傳のために，参考品を陳列展覽し又天體觀測會を催しました。先づ展覽會場の一部に，惠藤幹事の15センチ反射望遠鏡(中村鏡)，5センチ屈折望遠鏡，15センチ鏡にて撮りたる水星日面經過3月の寫眞，及これ等の説明書，興味ある恒星の表，太陽系發見繪物語の掛圖なご陳列して一般の參考に供しました。

天體觀測會は、毎夜日没後から九時までの間

十三日 主に土星の觀望と土星の話

十四日 主に木星の觀望と木星の話

十五日 主に恒星界の觀望とその説明をいたし

廣場に15センチ反射機、8センチ屈折機二臺、5センチ屈折機等を並べ惠藤、吉野、山根なごの支部會員が指導しました。三日ともによく晴れて天體觀望には頗るよろしく、來會者は午後六時前からもう押しかけて、九時までの間三時間ばかり入り代り立ち代り熱心に見たり聞いたりして喜んで歸つて行きました。

十月九日、惠藤幹事は厚狹郡吉部小學校に、天體觀測の指導に參りました。研究會は先生方十五名で開かれ望遠鏡の話小望遠鏡による天體觀測の話なごして日没後から八時半まで觀測の指導を致しました。たいへんいゝ空で天王星も肉眼でかなりによく見えみんな初めてなので非常に喜んで居りました。
(昭和三月十二月二十四日)

事務室より 十二月末を以て會計簿を締切り決算をやつて見ましたから御報告致します。先十二月現在の貸借を申上げる。四年度會費の前拂の預りが1041.—印刷所の帳尻が1426.68 取次書籍代未拂が200.—星圖代が550.—一時預り金が300.—それに対して財産としては現金や切手、小爲替が18.66郵便貯金其他預け金が23.33振替貯金が11.25事務用什器の見積りが30.—廣告料其他未收が70.—東京の某書店に對して、印税、星圖代、賣上代金として約2000.—以上貸がある。これはずつと前からの貸で幾分は回收不能になるかも知れない。見た所貸借の平均は取れて居るが財産が殆んど全部固定して居るから金廻りはかなり苦しい。

三年度の總出入の報告はしばらく御猶豫下さい。前會計が病氣其他の事故で七月までの報告をいまだに提出せられませぬのですから。

會員の方々から丁重なる年賀狀を下さつた事を幹部一同厚く御禮申ます。